

令和6年度 第2回たかつコミュニティスクール 議事録

- 日 時 令和6年8月28日(水) 9時30分～11時30分
- 場 所 神奈川県立高津支援学校 生田東分教室
- 出 席 学校運営協議会委員6名 事務局10名
- 問合せ先 副校長 埜崎 真弓 電話:044-865-4921 (直通)

1 学校長あいさつ

来週から2学期開始、生田東高校(本日の開催場所)は2学期が始まっている。前半は高等部・分教室の様子の説明、後半は部会に分かれて取組の報告をする。忌憚のないご意見をお願いします。

2 会長あいさつ

今年はノロウイルスや感染症などが流行し、児童生徒の安全確保が厳しくなっている。報告を踏まえて、忌憚のないご意見をお願いします。

3 生田東分教室視察

生田東分教室長による案内・説明

4 分教室、高等部の今年度の取り組みについて

<高等部全体>生田東分教室長より

- ・本校と分教室の個別教育計画の書式をそろえた。
- ・Chromebookが一人1台となり、全学年同時にPCが使えるようになった。

<生田東分教室> 生田東分教室長より

- ・1・2年生で、県教育センターの学校アセスメントを活用することにより、一斉教示、作業の正確性、集中力などについて客観的な資料を得ることができた。
- ・昨年度までの部活動を、サークル活動としてLHRの時間に全員参加する形に変更した。

<川崎北分教室> 川崎北分教室長より

- ・宮前警察署の生活安全課より講師を呼び、防犯教室を実施。SNS・特殊詐欺等について学んだ。
- ・分教室全体での学部集会を月1回程度実施し、みんなで学ぶ機会を設定した。
- ・生徒の実態を確認し、本人・保護者への説明を十分に行ったうえで、2年次の実習を全員ではなく、生徒の実態に応じて実施することにした。
- ・川崎北高校と一緒に避難訓練を復活させた。

<高等部本校> 高等部学部長より

- ・chromebookを活用して、夏休みの記録の入力や教員とのやり取りを行った。
- ・学年対抗スポーツ大会、校内実習での小中学部の下膳作業など、交流の取組を行った。
- ・作業班ごとの話し合いを学部運用日に実施。
- ・就労準備性ピラミッドの活用のなかで、就労は土台(毎日学校に来る、身だしなみ等)が大事であることを再確認。生徒にもわかりやすい。

◎協議（●委員 ○事務局より）

【chromebook について】

- 学校の ICT 機器は iPad だったのではないか？
- 県の方針により、今年度から、小中学部は iPad、高等部は chromebook となった。
- 自宅へ持ち帰る児童生徒もいるのか？
- 高等部の chromebook は就学奨励費での購入となっており、個人所有。管理は学校。
- 夏休み前に家庭に持ち帰りについて確認した。生田東分教室では 1 名持ち帰った。
- 就学奨励費での購入費の上限は 5 万円。購入希望を確認後、県で一括購入した。Google アカウントを付与し、cloud で活用。ただし、chromebook でなくてもアクセス可。

【高等部（分教室）進学者について】

- 進学希望の生徒が出てくるのでは？
- 進学するために、途中で進路変更する生徒もいる。
- インクルーシブ教育実践推進校やフリースクールなどが増えて、分教室はそれらとの差別化を図る必要があるのでは？
- 分教室へ入学してくる生徒の多くは、中学校の特別支援学級から。インクルーシブ教育実践推進校も含めて進路選択できる仕組みになっている。
- 分教室の人气がなくなったということはないか？
- それは今のところない。
- 昨年度の生田東分教室の 3 年が 2 名と少なかった理由は？
- 希望者の地域的なバランスによる。今は特別支援学校希望者が増えている。
- 生徒は減少傾向で、進路の選択肢も増えているのに、特別支援学校希望者は増加傾向。

【部活動について】

- 生田東のサークル活動とは、どんな活動があるのか？
- 音楽、アート、ゲーム（ウノ・ボードゲーム・百人一首等）、映画鑑賞、チームスポーツ、個人スポーツ等
昨年度まであった鉄道研究会は希望者がゼロでなくなった。
- 部活動は今までは放課後に実施だったのでは？
- サークル活動は日課表内の活動。放課後残ってまで部活動をやりたくないという生徒が増えていると感じている。
- 部活動はやりたいけど、残るのは嫌ということか。
- 川崎北分教室は、課外活動として、筋トレ、軽音楽、アニメ、ゲーム、部活動としてはバスケットボール部がある。両方とも、希望者が放課後に残ってやっている。川崎北は残りたい人はとことん残ってやる傾向がある。
- 本校は TAC（高津アスリートクラブ）が月 1 回程度、希望者が放課後残って活動している。競技としては、陸上、T ボール。自力で下校できる生徒が対象。

【現場実習の変更について】

- 変更の趣旨は？
- 2 年次、実習期間だからと言って実習に出すのではなく、力を伸ばしてから実習に出すのでいいのではということである。
- 就労の時期が、生徒によってずれていくのは意義がある。

- 保護者の理解を得るために、保護者に十分に説明する必要がある。
- 逆のパターン（力はあるのに実習に出たくないという生徒・保護者）もある。

【情報教育について】

- chromebookの導入により何が変わったか？
- 情報を自分で集める学習がやりやすくなった。自分で学ぶ頻度が増えている。
- 現代人は、誰かから聞いた不確かな情報で動きがち。
- 調べ学習等でずれた内容で調べている生徒もいる。
- 生徒はAIを使ったことはあるのか？
- 目的がないので、生徒はAIまでたどり着けないのではないか。
- AIも含め情報教育は重要である。
- 教室としても情報教育には力を入れている。
- chromebookは年度始めにやっと整備したところ。情報教育に中身については今後整備。現在は、PCに強い教員の力に頼っている状態。学校全体としてはこれから。夏休み中に研修を実施。検索、発信、PPTなどを授業で取り入れている。
- 次回のコミュニティースクールでは、情報教育の取組について報告する予定である。
- 何が変わったかを話してもらえるとよい。
- 企業側も学校の取組を知れば、採用しやすくなるのではないか？
- 現場実習でも、PCを利用した仕事を切り出すことを検討したい。ただし、入力の仕事は減っている。採用基準も変わるかもしれない。

【その他】

- 「たかつ教育内容系統表」と個別教育計画のリンクや、アセスメントの活用は、エビデンス、根拠、説明、共通理解、生徒自身の目標の明確化につながる。
- 川崎北分教室のスマホ教室の取組は大事である。SNSでも問題が発生しているのでSNSから防犯に結び付けているのがよい。生田東分教室、本校でも取り組んでほしい。
- 生田東分教室は、スクールサポーターの見回り、学期ごとの講話をお願いしている。

5 まなび・あんぜん・あそび部会の取組みについて 各部会に分かれて報告・協議

<まなび部会>

- 7月25日(木)・8月27日(火)のミドルリーダー会で検討・まとめを行った「たかつ行事スタンダード」について事務局より報告。
- 小学部と高等部で同じ場所に出かけるにしても、学部によってねらいが違う。また、児童生徒によってもねらいは違う。「たかつ行事スタンダード」は、高津支援学校として、学部ごとの修学旅行・宿泊学習・遠足の目的を明確にしていこうという目的で検討をしたもの。
- コロナのおかげで行事をもう一度考え直すきっかけとなった。校外行事のねらいがあるのは良い。同じ場所でも保護者に説明できる。デメリットとしては、教員がこの表にとらわれすぎないかどうか。
- 表を保護者にも見せてよいと思う。各行事の頻度（1年あたりの回数等）を入れたほうが良い。障害者割引で安く泊まれる宿泊施設などの情報も載せられるとよい。

- 卒業後の日中活動の事業所は、今は男性職員が少ないので、入浴などの介助が難しく、外に出かける機会は日帰りが多い。規模も縮小している。
- どれだけ学校がすごいかが、卒業してわかる。行先を生徒に聞くのもあるかなと思う。
- 表に初期食・中期食の提供のできる施設を載せるとよいと思う。

<あんぜん部会>

- 8月22日(木)～23日(金)に実施した「防災のひろば2024」について担当GLから報告。
 - ・「防災のひろば」について、令和5年度は児童生徒とその保護者(家庭)を対象としたが、今年度は希望する分教室生徒とし、当日生徒11名が参加した。楽しいだけの宿泊とならないよう、はじめに目的を生徒に伝えた上で活動を開始し、結果、振り返りアンケートでは「(家にある)水を確認したい」、「(備蓄)食料を買う」などの感想が生徒からもでており、一定の成果があったものとする。
 - ・次年度以降の「防災のひろば」については、本校高等部1年生を対象とした宿泊型としていく予定。その際、地域の方々のお力も借りられたらと考えている。
- 防災への取り組みについては、地域とともに活動することが大切。「体験している」と「体験していない」では大きく違うため、大切な活動。今後、居住空間の広さなど、様々なパターンで活動できると良い。家族以外の接点を作ることも大切であるため、地域とともに防災への取り組みを行うことは必要である。

<あそび部会>

- 「秋の遊び場」について
 - ・今年度、運営委員会設置要綱、組織図について整理。テーマを設定した。
 - ・名簿もあるが今回は省略。事務局は学校の支援連携係が担当する。
 - ・今まであいまいだったところを明確にした。今後、微調整していく。
 - ・細かいところは運営委員会設置要綱と同じ。8月1日より施行。
 - ・シンボリックな活動を検討している。みんなの祈りを形に。
バルーンリリース、ランタン(牛乳パックを加工して。LED)等
 - ・「広げる」より「深める」を考えていく。
 - ・ワークショップ(高等部の人形劇の人形作り、販売、スポーツブース、発表(演奏・ダンス等))
 - ・ポッチャ大会のあり方については検討中である。
 - ・企業連携の話も出ている。
- どのような協力ができるか。雇用部会に協力を仰ぐとか。予算取りはどのようにするか。次年度に向けて、頭に入れて少し動いてみようと思う。

【各部会より】

<まなび部会>

- ・「行事スタンダード」について、作成することに意義がある。保護者との共有もできたらよい。
- ・各学部で行事のねらいの根拠にする。
- ・保護者に見せるにあたり、書式も検討していきたい。

<あんぜん部会>

- ・8月22日(木)～23日(金)に防災宿泊を実施した。
- ・防災が生徒自身の意識に根付くことをねらいとした。
- ・実施後、参加した分教室生徒から、防災における具体的な行動についての意見が出た。
- ・たくさんの人、知らない人との避難生活について知るために、地域と連携して実施することも検討していく。

<あそび部会>

- ・11月30日(土)「秋の遊び場」を実施する予定。
- ・企業の誘致なども、今年度の結果を踏まえてお声かけをしていく。

【質疑応答】

- たかつマルシェは学校の行事か？外部の人は参加できないのか？
- 学校の行事としての位置づけである。外部の方々をご案内するかについては、現在検討中である。

6 学校運営の承認について

承認いただく

7 学校長あいさつ

本日はありがとうございました。いただいたご意見は年度後半で活かしてまいります。

8 事務連絡

【配付資料】

- ・令和6年度 第2回たかつコミュニティスクール開催要項
- ・令和6年度 たかつコミュニティスクール部会メンバー一覧表
- ・令和6年度 たかつコミュニティスクール部会の取組みについて
- ・令和6年度 高等部・分教室の取組みについて
- ・令和6年度 まなび・あんぜん・あそび部会の取組みについて
- ・学校だより「スマイルのたね」第76,77号